スポーツ・エンターテインメント

事業領域 スタジアムを中心としたスポーツ・エンターテインメント施設の開発・運営等

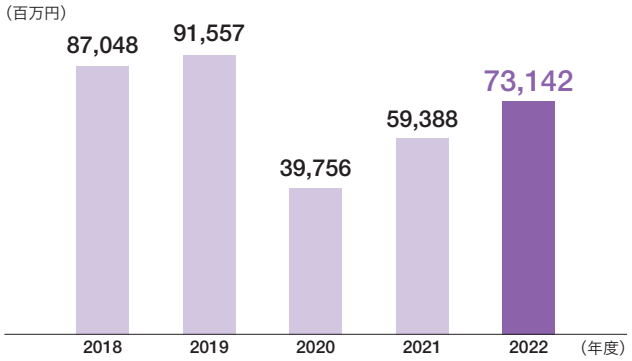
事業戦略

スポーツ・エンターテインメントを活かした街づくり

スポーツ・エンターテインメントによる感動体験を生み出す街、東京ドームシティ

東京ドームシティ　営業収益推移

※ 2018～2020年度は当社グループ連結前、2021年度以降は当社グループ連結後の数値になります。

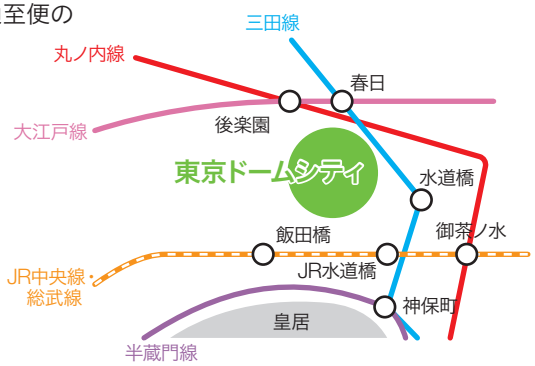


東京ドームシティ来場者数　約4,000万人/年（2019年度）

東京ドームシティの強み　都心交通至便立地×集客力を持つ多彩な施設の集合体

立地力

都心かつ交通至便の広大な敷地



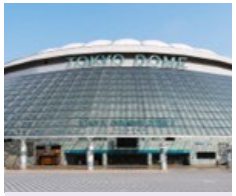
東京都心に 約13haの広大な敷地

4路線3駅と隣接、高い交通利便性

- 東京駅　約6分
- 羽田空港　約45分
- 成田空港　約50分

施設力

多様な来街者のニーズを満たす豊富な施設



東京ドーム
全天候型スタジアム
最大収容55,000人

LaQua
商業施設
遊園地
スパ

東京ドームホテル
大規模シティホテル

イベント力

都心における多様なイベントを通じて集客を実現

東京ドームシティ

東京ドームシティ　収益の源泉

東京ドームシティにおける各アセットについて、主な収益の源泉を紹介します。

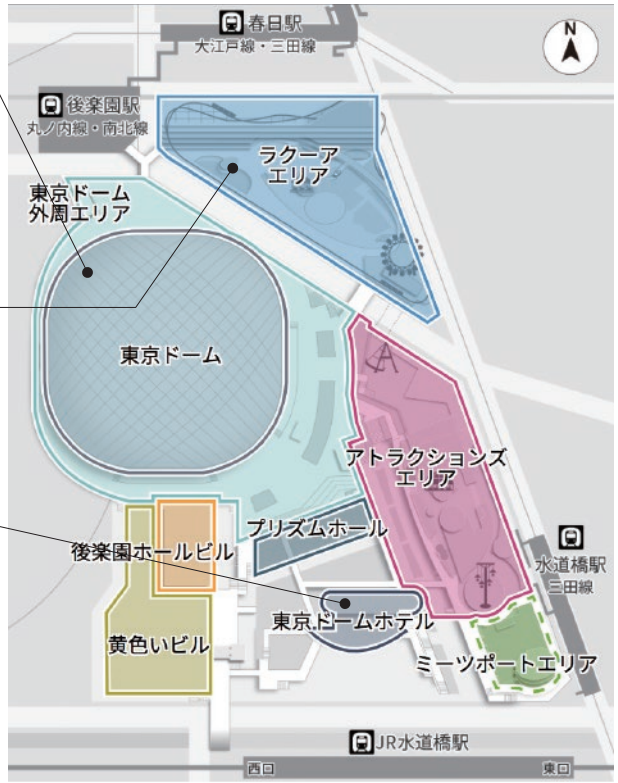
東京ドーム
- プロ野球・音楽コンサート等 イベント開催による収入
- 飲食/物販収入
- 広告収入

LaQua
- 施設営業収入（アトラクション、温浴施設等）
- 商業テナント 賃貸収入

東京ドームホテル
- 宿泊料
- 飲食収入
- ホール 利用収入

その他※
- 施設営業収入（アトラクション・遊戯施設等）
- 商業テナント 賃貸収入
- ホール 利用収入

※ 黄色いビル、後楽園ホールビル、アトラクションズ、ミーツポート、プリズムホール等



スポーツ・エンターテインメントの力を活用した「感動」のある街づくりをさらに加速

- LaLa arena TOKYO-BAY※1は、昨年7月の開業以来、順調に稼働し、ららぽーとTOKYO-BAY、ららテラスTOKYO-BAYへの回遊効果も顕在化
- 新たに、収容人数1万人規模の大型多目的アリーナ「（仮称）名古屋アリーナ」※2を2028年初頭に開業予定
- いずれもB.LEAGUE※3所属チームの本拠地となり、当社が展開する大型商業施設「ららぽーと」に近接
- 三大都市圏を中心に立地を厳選の上、スポーツ・エンターテインメントを活かした「感動」のある街づくりをさらに加速していく

※1 株式会社MIXIとの共同事業
※2 豊田通商株式会社、KDDI株式会社との共同事業
※3 日本の男子プロバスケットボールリーグ

スポーツ・エンターテインメント×商業施設の連携モデルの拡大

LaLa arena TOKYO-BAY

ららぽーとTOKYO-BAY

（仮称）名古屋アリーナ

ららぽーと名古屋みなとアクルス